
詩『消毒液と素直な君』

もりそば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩『消毒液と素直な君』

【Nコード】

N2833P

【作者名】

もりそば

【あらすじ】

その匂いの中でだけ、君は柔らかい

(前書き)

掌編なのに詩・第二弾

消毒液の匂い 君は嫌いだと言ったね

ここから見える風景には限界がある

確かにそうだ

簡略化したベッド

簡素な枕

簡単な点滴

私はその中に埋もれてる

君はベッドに腰掛けて

無様な私を見下ろして

苦笑しながら云った

ボクが居るのに何て様だ

お前はやはり馬鹿だなと

淡い日の光

君は途中でゆると手をかざす

そっと触れられた肌に熱がともる

暖かいね

まあな

繋がっている箇所で
熱を与えて 受け取って

私と君

ボクとお前

呼び方は違えど
二人は共に在る

さらりさらりと掌

私の髪を撫ぜる

心地よさにまどろむ視界

寝るなよ

優しい手つきは一転
おでこに平手

痛い

針 刺さるぞ

そりゃヤダ

抜けた会話が
ゆるりゆるりと染み渡る
こそばゆい君の声

顔をしかめて

鼻を押さえる君

やっぱり嫌だ消毒液

そう 私は好きだけど

変な奴だと君は笑う

でも私は好きだよ この匂い

君はいつも平静で

時々毒舌

それでも私は君がいい

この匂いの中でだけ君は
冷たい瞳が揺れていたね

無関心に見えて

ずっと私の手を握っている
痛いほど強く強く

君の汗の感触が

速い手の鼓動が

微笑ましくて嬉しかった

消毒液の匂いの中での君は

普段なら見れない

貴重な顔をしてくれる

それを見る度

君に溶けてゆきたいと思ってしまう

なんだよ

じっと見ていた私を
気味悪そうに見る君

でも私は知っている
辛辣な目をしていても
君が私を大事に思ってくれていることを

ぎゅっと繋いだ手は
まだ離してくれそうもない

(後書き)

見えるものより、観えるものを大事にしたい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2833p/>

詩『消毒液と素直な君』

2011年1月24日06時51分発行